

## 令和4年度第6回田上町教育委員会定例会会議録

1. 開会年月日 令和4年8月23日 午後3時00分
2. 開会場所 田上町役場 会議室1
3. 出席委員 教育長 安中 長市  
教育委員（教育長職務代理者） 石田 一平  
教育委員 山田 正夫、齋藤 美里、渡邊 悦子
4. 欠席委員 なし
5. 職務のため出席した者  
事務局長 時田 雅之、指導主事 佐藤 春男、局長補佐 諸橋 弘樹
6. 会議に付した事件
  - (1) 「田上の12か年教育」の評価について
  - (2) ふるさと田上からの応援小包事業実施要綱について
  - (3) 諸報告
  - (4) その他
7. 会議の経過及び結果  
令和4年8月23日午後3時00分、令和4年度第6回田上町教育委員会定例会の開会を宣言した。本会期を1日と提案し、了承され決定した。本日の会議録署名委員に石田委員を指名した。

教育長 議事に入る前に一つ。児童の中でも、それから児童のご家族の中でも残念ですが、陽性者が毎日のように出ています。26日からが小学校も中学校も始業式なのですが、その中でどうやって対応していこうかということで、校長先生とお話をしています。以前のように1人2人出たから学級閉鎖です、学校閉鎖ですと言ったら、多分ずっと学校は開けません。そこで今、相談をしていますが、マスクを食事や運動以外で外さないことにして、マスクを外さない場合は、濃厚接触者に当たらないようにして、濃厚接触者になると少なくとも5日間は出られなくなりますので、そんなことを考えながらやっていきますので、よろしく願いいたします。羽生田小学校が8月6日から9日に児童クラブを中止しましたけれど、メールだけの連絡で申し訳なかったと思っています。児童クラブの中で広がる恐れもあったので、閉じました。その後は、児童クラブの方も順調に進んでいます。そ

の報告だけさせてもらって議事に入ります。

議事ですが、1番と2番を変えて、2番のふるさと田上からの応援小包事業実施要綱、こちらの方を先にしたいと思います。事務局の方から説明ください。

局長 議事の(2)になりますが、ふるさと田上からの応援小包事業実施要綱ということで、こちらはコロナ対策の事業になりますが、資料を用意しましたので、補佐の方から説明をいたします。

補佐 それでは私の方からご説明をさせていただきます。資料No.2をご覧ください。ふるさと田上からの応援小包ということで、町外で暮らしている学生さんに田上町の産物を送付するという事業です。目的につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響下において、学生生活を送る大学生等に対し、地域の産物等を送付し、生活を支援するとともに、田上町に対する愛着を醸成することを目的とします。その他に、町の商品を購入することで、町の経済対策も見据えています。続いて、送付対象者につきましては、令和4年5月1日現在において、大学等、これについては大学の他に短大ですとか専門学校も含めております。通学のため町外に居住する学生で、しかも保護者が田上町に住所を有している学生という形になります。送付の内容については、8千円相当の産物等の詰め合わせととなっております。第4条に申込方法が記載されていますが、本日、総務課の条例担当から、添付書類についても記載した方がよいのではないかと指摘がありましたので、それらを変更させていただくことになると思います。先程8千円相当の町の産物等とご説明させていただきましたが、資料の裏面を見ていただきますと、中程に希望の商品名ということで、第1希望から第3希望まであって、Aセット、Bセット、Cセットという形になっております。それぞれのセット内容については、特記仕様書に記載しております。選定にあたりましては、学生が一人で住んでいることを想定しまして、賞味期限が長いもの、調理ができるだけ簡単なもの、あとは田上町の産物であること、という3つのポイントで選定しています。Aセットについては、コシヒカリ、梅干し、越の梅ドレッシング、筍とポークのカレー、はちみつ、蜜になる砂糖、梅カステラ、手焼きせんべい、青梅氷り、団九郎カステラスク、ガーリックラスクとなっております。Bセット、Cセットについてもそれぞれ記載のとおりです。商品については十分在庫があるということで確認し

ていますが、品切れ等になった場合は、別のものに変えていくというように考えています。現在、準備を進めておりますが、9月中にはお知らせしたいと考えております。以上です。

教育長            まだ、企画中ということですが、何かご質問ご意見がありましたら、お聞かせください。町外だから新潟市在住でも対象なのでしょうか。

補 佐            対象になっております。

山田委員        申込書は世帯主ではなくて、保護者でいいのですね。

補 佐            保護者で考えております。

教育長            いろいろな種類があるので、例えばAセットの中で1つの商品が品切れになった場合はどうしますか。

補 佐            この中で売切れが出てしまったら、同等品をあてがおうと考えています。

教育長            これらの商品は道の駅で売っている商品が中心なのですか。

補 佐            道の駅で販売しているものから選定しております。

教育長            他に何かありませんか。石田さん、この選定はどんな風にお感じですか。

石田委員        私がもし学生だったら、これだけもらっても手に余るような気がします。見ていて楽しいですけど、学生であれば米とカレーだけでも十分だったような気がします。つぶあんをなぜ選定したのですか。

補 佐            渡英商店さんがイタモチを販売していたので、つぶあんもセットに入れてみました。

局 長            学生は味噌汁とゴハンだけでも満足するかもしれませんね。

石田委員        ほとんど毎日同じものを食べても大丈夫な世代ですよ。米5kgにレトルトカレー10パックの方が喜ばれるかもしれませんね。私のように昭和の人間は、同じものがドンと来た方がうれしいかもしれませんね。でも、多品種の方が確かにやりくりはしやすいですね。

教育長            今、大学生に支援金を出していますが、そこに申請してきた方にはご案内するのであるのですか。

補 佐            対象となる方に案内したいと考えています。学生に手紙を出しても見てくれないことがあるとお聞きしたので、親御さんに案内しようかと考えています。

石田委員        確かに親御さんの方が確実でしょうね。喜んでくれるだろうし。

局 長            申請者は保護者でも学生でも大丈夫か。

補 佐            どちらでも大丈夫にしています。

教育長 他になければ、この件は終了したいと思います。まだ、決定ではないようですが、少し調整をして準備が整いしだい開始するということですので、よろしくをお願いします。

では、次に「田上の12か年教育」の評価についてということで、昨日ご自宅に届けさせていただいたのですが、それをお持ちだったでしょうか。

（「はい」の声あり）。では私から少し説明させていただきます。「田上の12か年教育」の令和3年度の中間総括と今後の展望ということで、前の教育委員会の時に前半の部分は見ていただいたのですが、それにインタビューを付けさせていただきました。昨日渡したときに言えばよかったです。実は最初に教育委員の皆様に見せたものと、少し違うところがあるのでですね。佐藤指導主事、どこが違うかだけ説明してください。

佐藤指導主事 3ページ目と4ページ目をご覧いただきたいと思うのですが、3ページ目の3番、学習指導要領との円滑な接続ということで、幼稚園と小学校の連携について触れさせていただきましたし、4ページ目をご覧いただきたいと思うのですが、学習指導要領が変わって、小学校3年生から外国語活動。5年生6年生は外国語という風になりますけども、田上では幼稚園の時から英語に親しんで、小学校に入ってから外国語活動が始まった時に困らないようにしますよということの紹介と、それからプログラミングが新しい学習指導要領に入ってきたんですけど、田上では一つのプログラムとして、スクラッチ、小学生も中学生もエムボットを使って、中学校に行った時に汎用性を広くしていきますよということ。それから、ウの方で、子ども達の基本的な生活習慣を育てていきますよという取り組みの紹介を3ページ目4ページ目の方に書かせていただきました。したがって2ページ分これまでよりはボリュームが増えるということになります。よろしくをお願いします。

教育長 はい、ありがとうございます。本当はもっともっと載せたいことがあるんですが、載せていくとページ数が増えてしまうので、この1ページ半という中で入れさせていただきました。インタビューを丸山前教育長さんと、石田教育委員さん、白井園長さんにしました。私がインタビューしている形です。その前のページまで皆さんに見ていただいたのですが、12か年教育をまとめるのにあたって、関わってきた内容が分かる方にインタビューをしてみたいなと思ってしてみました。説明は読んでいただくだけな

のですけども、最後にインタビューした感想みたいなものを最後にまとめにしました。ここには7月と書いてありますが、私の考えでは9月頃に配れるところには配りたいと思っています。まだ時間があるので、直せるところは直したい。是非、辛口の意見で結構です。これはどういうことかな、こういう風に改善した方がいいかなということを是非お話いただきたいと思います。全体の感想でもいいですし、こういう風にした方がいいじゃないかというご意見でもいいです。是非お願いしたいと思っています。どうでしょうか。

斎藤委員        すみません。質問ですけど、これはできたらどこに配られるのでしょうか。

教育長         今のところ考えているのは、1番は学校の先生方です。それから今まで携わっていただいた中でインタビューされた3人の方、それから町村の教育委員会で参考にしていただきたい。それから議員さん達にもお配りしたい。親御さんのところにとというのは、まだ無理なんじゃないかな。ホームページ上に掲載してもいいと思っています。お配りすることは考えていません。その部分もまだ詰めていないので、これから1月ちょっとあるので、その中で考えていきたいと思います。

渡邊委員        12か年教育とか、こういうことを掲げているのは田上町だけなのですか。いろいろな市町村で、その市町村独特の計画を立てているのでしょうか。

教育長         ここら辺で一番特徴があるのが、三条の小中一貫教育。小学校と中学校を一つにしてやっていますよね。例えば嵐南小中学校なんかは学校が一つになっているし、三条二中と一ノ木戸小は隣同士にしましたね。小中の繋がりの中でやっている。大崎学園は小学校と中学校を本当に一つにしてしまいました。1年生から9年生まである。それが特徴です。まだ、そこも始めて数年経ちましたけど、そのまとめみたいなものは出したのはないです。ですから、こういう形でやっているところがなくて、本当に暗中模索で、こういうので本当にいいのかなと思いつつながら考慮しているのですけどね。佐藤指導主事、他に12か年教育のまとめをしているところはありますか。

佐藤指導主事    小中連携ということで今頭の中に浮かぶのは湯沢学園。湯沢町の小学校と中学校、全部一つにしました。建物は違いますけどやっていて、一枚もののパンフレットを作っていますが、内容的にはさほど詳しいことは書いていないみたいです。三条は中学校区ごとに一つのまとまりとして、小中

連携を図っていきましょう。三条の嵐南小学校と第一中学校が一緒になっているのは、同じ建物の中に小学生と中学生がいますから、例えばですけど体育の時間に中学 1 年生と小学校 6 年生が一緒にやってみたり、理科の授業を 6 年生と中学 1 年生が一緒にやってみたりとそういうことはやっていますけど、それ以上のことはあまり聞いたことがありません。その結果どうだったかも報告を見たことはなかったです。

教育長 さっき言ったように、湯沢学園はそういう意味でいうと 12 か年教育みたいなんですよ。園と小学校、中学校が一つの建物の中につながっているんですよ。すごいなと思いますよね。そのまとめは A3 版の表裏くらいに。

あと、特徴があるのは見附ですね。見附は色んなことをやっていて、例えば地域とのコミュニティとかで、色んな冊子を出しています。私どもが目指しているものと少し違うので、まとめ方は大分違う形で出しています。

ここまできたんですが、私の中で迷いがあるんですよ。山田委員、是非ご意見いただきたいと思います。

山田委員 はい。教育長が言う迷いとは、12 か年教育を進めていく上での迷いなのか、この総括、まとめの迷いなのか、どちらなのでしょうかね。

教育長 まとめの迷いです

山田委員 まとめの迷いですか。はい。じゃあですね、さっと読ませてもらって気付いたところ、まずここを訂正してもらいたいなというのがありますので。

まず、11 ページに一番上の中学校の自己評価からというのがありますよね。ここの 5 行目、教師と生徒は共に自分で家庭学習を計画し、取り組むことへの評価が低くなっています。家庭学習の大切さを認識している表れだと受け止められます。この部分の元になっているデータというのは、何かということなんですが。10 ページにあります円グラフの中学校教諭の評価だけじゃなくて、生徒と教諭の評価だよ。両方。教諭だけじゃないですが。そのグラフの 8 番、つなぐ時間、これが元になっているんでしょうかね。

佐藤指導主事 そうです。

山田委員 そうですね。このデータから見ると、というふうに入れてもらえると分かり易いのかなと。それから 21 ページ、12 か年教育の展望がありますが、一番下、地域・保護者の納得、オール田上ので、でですよ。のがいりませんよね。それからその上の教職員の納得、学校間連携でいいですか。学

校種間連携、学校間、田上小と羽生田小の学校間を指すか、中学校・小学校・幼稚園の連携を指すか。校種間の連携なのか、両方含むはずなんですけど。

教育長                    このところ、直します。

山田委員                文言だけで申し訳ないですが。

27 ページ、白井園長の話の 2 行目、他者との折り合い、「が」が入ると思っています。

                          文言だけだとそのくらいなんですけど、ちょっと読ませてもらって感想いいですか。

                          最後に 3 人の方のインタビューを入れてもらって、12 か年教育の位置付けというものが、今まで以上にはっきりしてきたなど。どういう目的で 12 か年教育に取り組んできたのかというのが分かるようになったなという気がします。

                          ただ、その反面、「身内の評価」という受け止めを、見る人によってはされかねないということなんですね。そこのところをどう解決していったらいいのかなということなんですけど。石田委員の話の中では、子供の主体的な学びの姿が学校で見えるようになってきたよという、こういうのは事実としてあるわけですからいいと思うし、白井園長の話の中でもアプローチカリキュラム、これ 3 ページ 4 ページのところに入ってきた、そのことが書いてあるんで実際こういうことに取り組んできたんだというのが分かってくると思うんですが。丸山前教育長の話の中で、まずこの 12 か年教育を取り入れた大元というのは、自尊感情と学習習慣を改善したいんだということがありましたね。そうすると、自尊感情はどうなったか。これ、14 ページの資料に載ってますね。大分、上がったか下がったかありますけど。学習習慣はどうなったかというのは、中々読み取れないんですよ。なにかそれを教育長の言葉の中で、つまり 12 年間同じ質問でやってきたというのがありましたよね。それを初めのデータ、或いは中頃のデータと比較して今どうなっているかというのを具体的に入れていくと、12 年間でこれくらい定着してきましたというのが入ってくると、最初の 12 か年教育を取り入れた狙いというのが着実に改善されているというのが伝わってくるのかなという気がしました。

                          あとですね、丸山前教育長の話の中で、キャリア教育を基盤に据えたの

は、園や学校での社会性の育成を目指しているんだという話がございました。体験活動の充実によって子供たちがこういう意識を持ってきたというのが、この学校の最後ですね、たよりを読むと色々書かれているんですが、何かその辺簡単に対談の中で教育長の言葉として「こういう姿が見られるようになってきてます」というのが入ってくるといいのかなと、そんな印象を受けました。

以上です。

教育長

ありがとうございました。インタビューの中で、私がこんなふうにまとめていきたいなという気持ちがあって、色々ご質問をさせてもらっているんですけども、実は学習習慣・つなぐ時間、実はこれはですね説明の仕方が良くなかったかもしれませんが、丸山前教育長の中では、それが我が家の約束だったんだそうですね。我が家の約束の中で自分の果たすべき役割も含めて、家の中のことを丸山前教育長はそこから中に入っていくかかったんだと思うんですね。実際、家庭学習をどうしてきたかという、平成26年度、田上中学校では今日家に帰ったら何の勉強をしようかということを考えさせたんですね。三学期に始めたんです。それで次の年から本格的にやってくれということで始めました。中学校では今ではある程度定着しているようです。小学校はどこでもそうですよね。自分の学年掛ける10分、それが家での勉強ですよね。中学校がやり出したので小学校も意識してやってくるんですが、正直言ってその評価の数値というのは難しいかもしれませんね。

それから、内輪だけの評価じゃないかというのがこのまとめの最大の課題です。一番後ろに書いたんですが、指導主事とも相談していたんですが、外って誰という話なんです。申し訳ないけど、保護者が12年間関わっていきなっていくのは無理ですので、でもちょうど入ったのが小学校1年生で最後中学校3年生になる保護者を一生懸命見つけて、その保護者に聞くというのも手だったんですが、それが中々できなかった。

ここにいる4人の方が一番の町民の代表なんです。ですから皆さんからご意見を頂いてきたということは、教育委員会の事務局サイドじゃなくて、皆さんからご意見を頂いて作ってきたんだと。これ1年前に出したんですよ。それから1年間ずっとあたためてきたんで、当時の皆さんのご意見をちょっとでも前に進めたいと思ったんですけども、私の決断力がなか



ったのか、1年もかかってしまったんですね。最後インタビューのところに外部からの評価ができなかったということをつけて、これから保護者を含めた意見を取り入れての仕組み作りというふうな書き方で終わったんです。

齋藤委員

時間とか難しい、保護者というのはすごい難しいというか、中々保護者も本音というか。できれば12か年、育った子たちの声載ってたら良かったなみたいな。多分今高校1年生なんですよ。去年春に卒業した学年なんです。一番最初に竹の友に入って、全部竹の友から12年この教育を受けました、中学を卒業しましたという学年なんですよ。なんか4~5人集めてインタビューじゃなくても座談会みたいな、あの時のあれ楽しかったよねみたいな、その時は分からなかったけど田上のことを学んだの楽しかったよねみたいな思い出話とか、あれって何だったんだろうとか実はあれは苦痛だったとか、我が家の約束を毎年考えるのが夏休み辛かったとかでもいんですけど、そういうのがあったら楽しかったなみたいな、高校生だしちょっと思いました。

教育長

なるほど、もっと早く聞けば良かったかもしれませんね。でも別に高校1年生じゃなくてもいんですよ。中学3年生でも。

齋藤委員

そうですね。

教育長

子供がどういうふうに自分のことを振り返られるかっていうのは、非常に難しいですよ。小学校も中学校も同じ方向を向いてやっていると、そのことに関しても子供もある程度は意識していると。言葉ではそうなりませんが、子どもが意識することは、実際は難しいですね。

石田委員

私はインタビューも事前に読ませていただいたし、この内容も見させていただきましたけど、何が一番印象に残ったかというインタビューを終えての教育長の話でした。私が思っていた12か年の途中で思った疑問とか思いというのは、このインタビューを終えての中に全部入っているんです。面白いなと思ったのは、教育長の話は面白いんで、いただきましたとか、「た」で終わってますよね。そこに「が」を付けるとその後のことが出てくるんです。知ってる人間にするとその後の事情が全部見えてくるんです。これは、インタビューを終えての感想ではなく、12か年教育を終わっての感想にした方が一番通りが良いというか、読む方も読んで疲れません。余韻が残る文章ですよ。決めつけている文章じゃなくて、読んでいてこういう思いもあったんだ、こうもあったんだ、ああもあったんだ

だと、先ほど教育長、自信がなかったようなことも言ってましたけど、これはかえって余韻となって読む方は楽しんで読める文章ですよ。

これはだから、インタビューを終えての後送りにするのがもったいないですよ。興味のある方は非常に面白いと思いますよ。

教育長 石田委員も丸山前教育長も白井園長も、ずっと関わってくださった方なのですが、少なくとも今私がまとめをしなくてはならない立場なんで、その人間が総括をしてはいけないと思っているんです。ですからインタビューという形でまとめさせてもらったんですけれども。

石田委員 でも本当に上手く書けていますよ。問題提起もあり、達成項目もあり。非常に希望が持てるという、言いすぎかな。そんな気がするんですよ。決めつけた文章じゃないので、希望が見えるような文章だから私は読んで爽快でした。単純な感想です。ただ、12年間でですから色んな見え方になるんでしょうね。

山田委員 そうですね。インタビューを終えてじゃないですよ。全体のまとめとして、課題も載せてるし。これまでを振り返ってみてとかね。そういうタイトルで。

石田委員 12か年を振り返るでいんですよ。

教育長 ちょっと考えさせてください。

山田委員、どうすれば良かったんでしょうかね。この、外部評価って。

山田委員 外部評価って大事ですからね。

教育長 例えば、12か年教育というと旗を揚げますよね。その旗に向かってみんな頑張りますよね。一つの目標に向かって。12か年経ったんだから、こういうところが課題だったんだから、これを改善して変えていこうということなんだと思うんですけど。実は、やっていること自体は、大変良いということによって皆さんから頂いているんですよ。そうすると、どこをどう変えるかというのが私の中では見えていないんですよ。

山田委員 去年だったかな。評価自体が難しいですよと言った覚えがあるんです。例えば、「田上をもっと好きになります。」どうなれば好きになったと言えるのというのを、ここで言ったような気がするんですよ。だから、感覚的には分かるんだけど、評価となると中々できない。田上のどこを好きになったんだろうか。低学年と高学年では随分と感じが違ってくると思うんですよ。もっと都会的な、遊べる場所があったほうがいいとか

ね。そういうところに魅力を感じて田上があまり好きではないとかね、そういうのが出てくるかも分からないし。

石田委員 子供が思う評価というのは、まだまだこの先5年、10年と変わってくると思うんです。こちらとしては評価を求めますが。求めたがっている評価の方法を考えれば、また違いますよね。

教育長 実は1年前に、山田委員に言われたことも佐藤指導主事と話をさせてもらったのですが、低学年の子の田上を好きになりますというのが、こういう気持ちになれば好きになるんだということを作ったとしますよね。大変、どう考えても難しいと思うんですが、表現が変われば、それに当てはまらなければその子は好きじゃないんだということ、そうではないんですよ。その項目を作って、例えば子供に自分はそうなのかどうなのかとアンケートするか。それとも、その評価に基づいて先生方が評価をするのか。今までそういうふうにはやってきてませんでしたから、比べるものがないので、変化も評価できないですよ。だから課題と入れさせてもらった。それが、27ページのところ下から4行目です。教育委員の皆さんから、子供に身に付けさせる5つの能力については、4つの行動の評価以外に、一つひとつの能力を評価する基準作りが必要ではないかという意見もありましたが、今回の評価に生かすことができませんでした。

山田委員 私が言うのは、やれと言うことではなく、難しいということなんです。

そういう意味で、丸山前教育長が12か年教育に取り組んだ家庭学習と自尊感情。家庭学習の習慣がどれくらい身に付いているかというあたりを述べることは、最初の取り組み対する大きな成果として示せるのではないかなど。

教育長 丸山前教育長と話をしている中で、家庭学習と言ったんです、確かに。言ったけど私の中では、丸山前教育長がおっしゃる家庭学習は生活習慣じゃないのかなど。でもそのままスルーしたのですが。

佐藤指導主事 多分ですけど、家庭学習、学習の中身も時代時代で変わってくると思うか。昔だと家庭学習で子供が家へ帰ってから、誰にも言われなくても自分で予習したり復習していくことが良かった。でも今は、キャリア教育ということで考えていくと、いっぱい勉強して高校へは受かったけれども、この先何をしていいか分からないではなくて、自分はこういう風になりたいから、こういう学習をしていくんだと、こういう事をしていくんだと、

それが家庭学習につながっていれば良いと思うし、昔はどの子も同じ形に育てていけば良かったのが、凹んでいるところを埋めて。今はそうではなくて、尖った才能があれば良いということなので、子供たちが自分の将来とつないで、だから自分はこういう勉強をしていくんだと、変えていくのが家庭学習だと思うんですけども、中々そこまで行けなくて、今、田上がやっていることはタブレット端末で自分が得意なところとか苦手なところを学習する。昔の家庭学習と今の家庭学習の意味合いが、求められるものが変わってきているんだろうなど。だから、丸山前教育長のインタビューの中に突出した能力というものがありますが、それがそうですよね。そういう子供を育てるのが良いよということ。

教育長 丸山前教育長が一番最初に田上中学校へ来たときに、全国学力状況調査を見て、自尊感情のあまりの低さと家で全然勉強をしていない実態を見て、「えっ」て思ったんですよね。私も同じでした。特に自尊感情はものすごく低くて、考えられませんでした。

山田委員 学力は向上してるわけですよね。

佐藤指導主事 ただ、言い訳にしかならないとは思うのですが、子供たちの人数は小学校では40人前後。40人ですから学年によって上下がある。NRTとかは平均でよこしますので、それだけで学力が上下しているよとは難しい。子供たちが、勉強が楽しい、私の先生は自分が分からないと分かるまで丁寧に教えてくれる。それから、自分が授業中に手を上げて発言をしたんだけど、的を外れても誰も笑わない。先生はむしろ、手を上げて発言することが良いんだよと褒めてくれる。これからの子供の能力を育てていく、開発していくためには非常に可能性のある働きかけだと思うので、そちらの方をやはり大事にしていきたい。学習塾にどれだけ通っているのかということによって比べていけば、新潟市の中学校に比べたら、かなりパーセンテージ的には低いと思いますので。

山田委員 そうすると、今のような子供の発言を教師がどう受け止めているのか、抵抗なく発言できている状況が生まれてきているという評価でいけば、このデータと一致して子供のいい面が出てくるのでは。学習習慣なんて言わないでね。子供の学習意欲につながっていると。

佐藤指導主事 そういう気持ちもあって、田上町のランドデザインには、幼稚園の先生も小学校の先生も中学校の先生も、目の前の子供をリスペクトしている

と言いますか、この子意外とやれるんじゃないかと尊敬の目で見ている、失敗したって良いんだ、君ならきっとできると褒めて伸ばす教育に少しずつ変換していこうというのが自分の思いとしてここに載せてあるんですけども。

子供と先生方の関係性って凄く良くなったなど。客観的な数字はないですけども、雰囲気です。

石田委員 私の子供の頃よりは、先生と子供の言葉のキャッチボールが全然多いですよね。12 か年教育は教室内の雰囲気を変えるだけでも価値があったと思います。その年々に波があるのでなんとも言えませんが、学校の教室単位の雰囲気は凄く変わったと思います。ただ数字的には出ませんよね。数字に出ないから評価の対象にはならないかもしれないけど。

教育長 学力が上がったかどうかと、その評価の仕方は二つしかないのです。N R Tと全国学力調査。中々難しいのです、N R Tの数字が本当に子供たちの学力なのかと。ただ、数字で比べるのはそれしかないのです。

佐藤指導主事 資料の 9 ページの右上をご覧頂きたいのですが、左側が国語、右側が算数数学なんですけれども、平成 28 年度の時に小学校 4 年生だった子が 5 年生、6 年生、中 1、中 2、中 3 と学年が進むにつれてどんな結果だったかというものです。国語も算数も偏差値 50 で全国平均、国語の方は学年によって上がり下がりがありますが、全国平均は超えています。中学校に行くとガクッと下がるのが普通なんですけれど、中 1、中 2、中 3 と進むにつれて、少しではありますが向上しています。算数数学については、中学 2 年生の時にちょっと苦しかったけれど、それ以外の学年では全国平均を超えています。ですので、そんなに悪いわけではない。6 年間の経歴を比較してみるとこんな形になります。

山田委員 平均ですからね、悪くないですよ。

齋藤委員 偏差値で比べるから、結局テストで半分しか理解していないんだけど、周りの学校もそれ以下だと偏差値は上がっちゃうし、みんな 8 割、なんだけどみんなが 8 割だから偏差値が 50 にしかならないから、あんまり落ちた上がったで一喜一憂じゃなく、生徒達が頑張って家庭学習もしているところ、保護者は評価したいなという気持ちですね。

教育長 山田委員、本当に内部だけの評価という面はあるのですが、今回はこれでいこうかなと思っているんですけど。

山田委員            いんじゃないですか。私もインタビューの中から読み取れるものという  
のは、12か年教育の性格を表しているなと思いました。

局 長                私からいいですか。表紙を見ていて、中間総括という言葉が少し引っか  
かって。中間なのか総括なのか、どこが中間なのか。

教育長               私も表紙を見て、あれっと思って。

局 長                一回りしたわけで、それが中間なのか。一回りすれば総括だと。この中  
間という意味がよく分からない。

石田委員            今後の見解という言葉でくくってあるから、中間という言葉を出してい  
ないとおかしいと思ったのかもしれない。でも、なくて結構ですよ。

教育長               5年前に作ったときは12年の途中だったから中間だったんですよ。総  
括という言葉がねえ。これ、総括なんでしょうかね？ちょっとこ考えま  
す。

齋藤委員            細かいんですけど、通して読んで田上の12か年教育という12が前半は  
半角なんです。後半は全角になってくる。あと、括弧が付いているところ  
と付いていないところがあって、こだわりがあるのかもしれないですけど  
統一した方がいいかなと。

教育長               ありがとうございます。色んなご意見を頂きました。それでは、その  
他のところで何かありますか。

補 佐                皆さんのところにお配りしたが、町村教育委員会連合会が中々開催でき  
なく、書面決議の依頼が来ました。内容をご覧頂き、よろしければ丸を付  
けて提出をお願いします。

教育長               その他ありますか。

佐藤指導主事        皆さんのところに、たけの子32号を配布しておいたんですけど、内側  
の右ページにQRコードがありますが、ICT関係で学校の先生方用を作  
って、保護者用のものも作りました。3つ書いてありますが、26日に発行  
予定ですので、まだ準備できておりません。準備できているのは田上小学  
校だけです。読み取ると田上小学校のトップページに飛びます。時間があ  
りましたらご覧頂きたいと思います。3校とも中身は同じです。

                         羽生田小と田上中はまだ準備ができていませんので、よろしくお願ひし  
ます。

教育長                次回、一応26日か27日にしたいと思います。決定次第ご連絡いたしま  
す。それでは最後に石田委員、お願いします。

石田委員

この間、日曜日に全国中学校陸上大会がありました。ずっと見ていましたが、凄いんですね、ゴールするとすぐにピンマイクを付けられてインタビュールームに連れて行くんです。すると選手全員が、理路整然と今日の反省と試合の経過、次回の展望を話すんです。中学生が。入場する時も、オリンピックの影響かな、名前を言われると必ずポーズを取るんです。なんで中学校の大会でそんなことをするのかなど、でもそういう時代なのかなと思いつつながら、オリンピックの影響がこんなところに出ているのかなと、これから中学生は大変だなと。これから中学生に何を求められるのか分かりませんが、私たちは子供たちを支えていきましょう。

教育長

それでは、第6回田上町教育委員会定例会を閉会いたします。